

マテリアリティ（重要課題）

（2025年11月10日現在）

- 事業環境の変化、マルチステークホルダーへの定量・定性調査や対話を踏まえ、19のマテリアリティを特定（前回は2019年）
- 2030 中期経営戦略にて解決すべき課題として19のマテリアリティを戦略の柱に合わせて4つに分類

《マテリアリティ（重要課題）の特定プロセス》

Step1. 社会課題の抽出

- ・ 国際ガイドライン（GRI/SASB/SDGs等）を基に社会課題を網羅的に抽出

Step2. マルチステークホルダーへの定量・定性調査と対話

- ・ 社員・お客さまへの定量調査
- ・ 経営リーダー(EO・地域CEO)へのインタビュー・アンケート
- ・ 株主/投資家・有識者へのインタビュー
（S&P/MSCI/CDP等ESG評価での社会的要請・期待のデスク調査含む）

Step3. 優先順位付け

- ・ マルチステークホルダーと事業双方の重要性からスコアリング

Step4. 社内における最終化（執行役含む経営リーダー）

- ・ 抽出したマテリアリティの分類・テーマ化
- ・ グローバルの経営会議で合意

Step5. 取締役会正式承認

マテリアリティ（重要課題）

多様な「美の力」を
通じた生涯にわたる
QOL向上

- ・ 生活者のQOL
- ・ DE&I
- ・ 人権尊重
- ・ 最先端のイノベーション
- ・ 安心・安全な製品
- ・ 責任あるマーケティング・広告
- ・ DX

レジリエントな
経営基盤の構築

- ・ ガバナンスの強化と説明責任
- ・ 公正な取引
- ・ 情報セキュリティ・サイバーセキュリティ・プライバシー
- ・ ステークホルダーエンゲージメント

美の価値創造
人財・組織

- ・ 価値創出人財・組織
- ・ 社員の健康と労働安全衛生

地球環境との共生
（循環型モノづくり）

- ・ 気候変動
- ・ 生物多様性
- ・ 水資源の効率的な使用
- ・ 循環型製品・モノづくり
- ・ 化学物質の安全性と適切な管理
- ・ 責任ある調達